

# 調査区全景写真



調査区遠景（東から）



牟呂坂津周辺地図

調査地付近もかつては水田が広がり、さらに以前は三河湾が望める台地でした。



調査区全景（南東から）

# 作業風景



発掘作業



遺物洗浄作業

# 牟呂坂津地区 境松遺跡 発掘調査 現地説明会

さかいまつ

令和4年 8月6日（土）

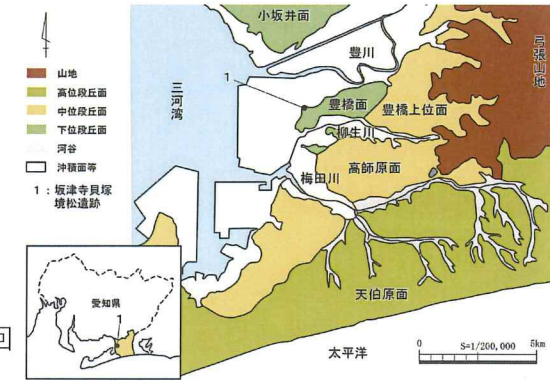
調査原因：豊橋市牟呂坂津地区土地区画整理事業  
 調査主体：豊橋市教育委員会（豊橋市文化財センター）  
 調査機関：株式会社四門

調査期間：令和4年4月～令和4年8月  
 調査面積：1155㎡

## 遺跡概要

境松遺跡が所在する牟呂坂津地区は、豊川左岸の台地（河岸段丘）の北端にあり、西に三河湾を望むところです。境松遺跡は、海へ半島状に飛び出した段丘の先端部の高まりに位置しています。江戸時代以降の水田開発で干拓されましたが、かつては眼下に三河湾が広がっていました。

境松遺跡から隣接する若宮遺跡にかけては、弥生時代中期～後期（約1,800～2,000年前）の環濠が巡る環濠集落が広がっていました。今回の調査地は環濠集落の中心部に位置し、周辺で行われたこれまでの発掘調査では、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物が数多く見つかりました。ほかにも、東三河で最古級の方形墳や円墳が確認され、中世から近世にかけての遺構では、中世以降にこの地で栄えた坂津寺に関連するとみられる掘立柱建物群や区画溝などがみつかりました。また、その立地から、海との関わりが深い遺跡と言えるでしょう。



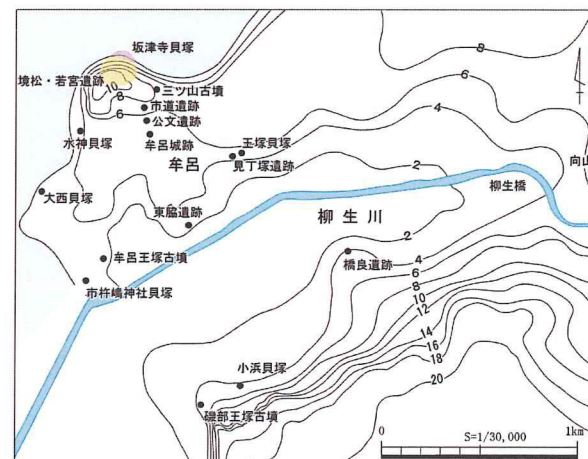
## 今年度の調査成果

今回の発掘調査では、縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が見つかりました。おもなものには、弥生時代前期の土器棺墓2基、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物18軒、大型の掘立柱建物2棟（うち1棟は独立棟持柱建物）、中世の墓坑、中・近世の掘立柱建物や区画溝などがあります。

なかでも弥生時代後期から古墳時代前期の建物跡が多く見つかりました。竪穴建物は18軒あり、1辺7mの大型のものが2軒あります。当時の有力な家族が暮らしていたのでしょうか。

とくに注目されるのは、弥生時代後期～古墳時代前期のものと思われる大型の掘立柱建物です。建物Aは過去の発掘調査で見つかったものの続きで、今回その全容を知ることができました。建物の規模は、桁行（長軸）7間（16.4m）×梁間（短軸）2間（6.4m）で床面積は約105㎡あります。柱はすべて抜き取られていました。この時期の建物としては、愛知県内で見ると長軸の長さでは2位、床面積では1位となる大型の建物です（※弥生時代中期後半の稲沢市一色青海遺跡の建物が桁行6間（17.6m）×梁間1間（5.1m）床面積約89.8㎡）。さらに東日本に目を広げても最大級の建物といえます。なお、帰属時期の詳細については、今後の整理作業でさらに検討を進める必要があります。

建物Bは独立棟持柱建物と呼ばれるものです。これは、妻から外側に突出した棟木を支えるために側柱の外側に独立した棟持柱を設けたもので、伊勢神宮の社殿などに見られる建築スタイルです。規模は、桁行4間（8.4m）×梁間1間（5.5m）、棟持柱間の距離12.2m、床面積約46㎡です。建物Bは古墳時代初頭～前期の竪穴建物に後続して建てられた古墳時代前期の建物と推測されます。また建物の東8.5mの位置には、この建物に伴う可能性がある柵状の柱列があり、目隠し塀のようなものと考えられます。



弥生時代から古墳時代前期にかけては竪穴建物での暮らしが一般的でした。一方で、建物A・Bのような大型掘立柱建物は、一般の集落民が住まいとしたものではなく、その規模や高度な建築技術から特殊な用途の建物と考えられます。例えば、首長が主催し村を挙げて祭儀を行う祭殿や神殿のような建物、首長自身の居宅、村全体の行事に関わる集会施設などの用途が推測できます。弥生時代中期以降、三河湾沿岸地域の中心的な集落が営まれ、しかも三河湾を見下ろす場所に、地域を象徴するようなきわめてシンボリックな大型建物が存在していたと言えるでしょう。



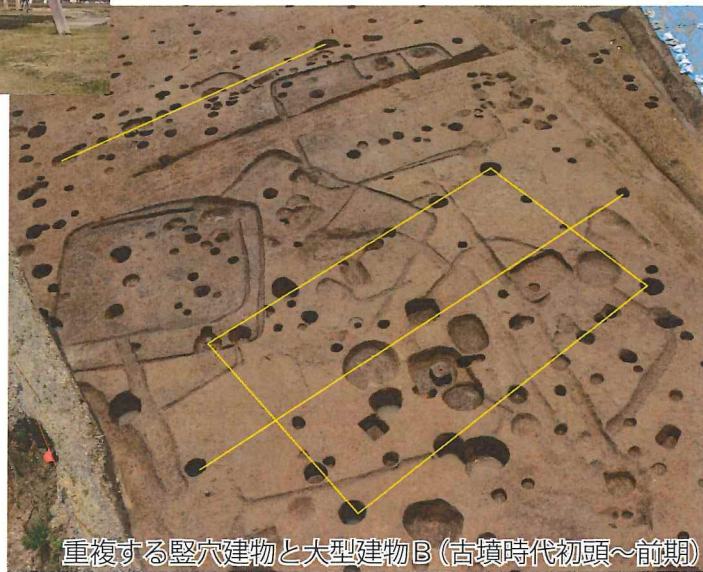


復元された独立棟持柱建物  
(静岡市登呂遺跡)

## 大型建物 B

桁行 4 間 (8.4m) × 梁間 1 間 (5.5m)  
床面積約 46 m<sup>2</sup>

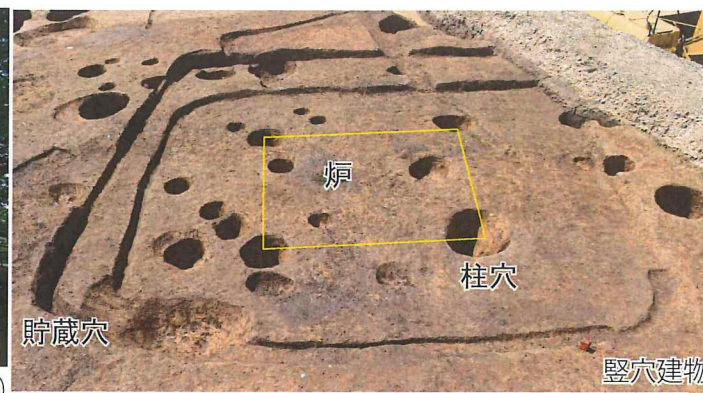
ひとびとが継続して暮らしていたので竪穴建物が重複して建て替えられています。竪穴建物に後続して独立棟持柱を備えた大型建物 B が建てられます。



重複する竪穴建物と大型建物 B (古墳時代初頭~前期)



復元された竪穴建物 (豊橋市瓜郷遺跡)



貯蔵穴

炉

柱穴

竪穴建物

## 竪穴建物 (住居)

竪穴建物の 2 辺を広げリフォームしています。柱穴には立て直しの痕跡がないので元の柱を使い続けたようです。



出土遺物

竪穴建物の床面から出土した土器と漁網のおもり (古墳時代前期)



弥生時代の石斧

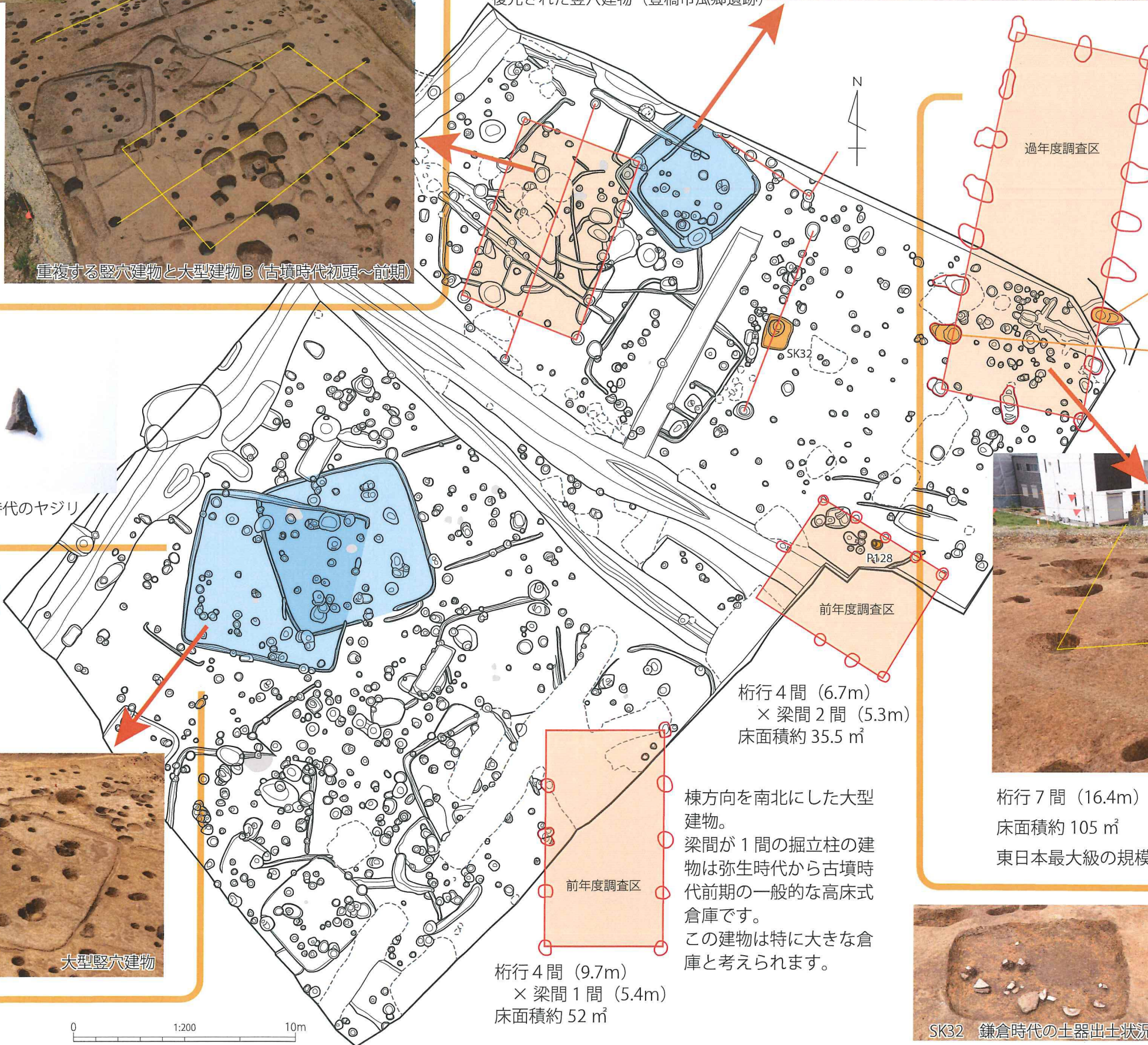
縄文時代のヤジリ

## 大型の竪穴建物

竪穴建物は、一辺 4 ~ 5m のものが多いですが、この 2 軒は一辺 7m あります。



大型竪穴建物



## 大型建物 A

桁行 4 間 (6.7m) × 梁間 2 間 (5.3m)  
床面積約 35.5 m<sup>2</sup>

桁行 4 間 (9.7m) × 梁間 1 間 (5.4m)  
床面積約 52 m<sup>2</sup>

棟方向を南北にした大型建物。梁間が 1 間の掘立柱の建物は弥生時代から古墳時代前期の一般的な高床式倉庫です。この建物は特に大きな倉庫と考えられます。

過年度調査区

前年度調査区

前年度調査区



柱穴



柱穴

柱は抜き取られていました。柱を立てたり抜いたりする作業をしやすくするためにスロープがつけられています。



大型建物 A (弥生時代後期~古墳時代前期)

桁行 7 間 (16.4m) × 梁間 2 間 (6.4m)  
床面積約 105 m<sup>2</sup>  
東日本最大級の規模です。



SK32 鎌倉時代の土器出土状況



P128 土器棺墓

P128 土器棺墓  
弥生時代前期の土器棺墓  
甕形土器を横置きにして小児を埋葬したとみられます。